

# 中東レポート

第 80 号

発行 ウニタ書舗  
東京都千代田区神田神保町1-52  
TEL.(03)3291-5533  
編集 J.R.A.  
郵便振替 東京1-48443  
三菱銀行神保町支店 当座9012656  
会員制 年会費24000円

目次

緊張のレバノン情勢とイスラエル選挙 ..... 1  
 料  
 アイン・カラ (リション・レッティオン) 大虐殺の殉難者たちの呼びかけ (抄) ..... 5  
 パレスチナ中央評議会闘争文書  
 メーテーに際してのP.F.L.P.政治声明 (抄)  
 パレスチナの民族諸派のイスラーム諸派の政治声明 (抄)  
 國際赤十字、イスラエルに対して、黒死病の非難  
 ブラヤテイ (イラン) 外相インタビュー (抄)  
 被占領地内での一連の大衆集会についてのレポート  
 重要日誌 (一九九二年五月一日～六月一〇日) ..... 15

## 緊張のレバノン情勢とイスラエル選挙

一九九二年六月一〇日

第三次中東戦争から二五年、レバノンへの侵略から一〇年を迎えた。この二つの侵略戦争は、いずれも六月初旬に開始された。イスラエルは、六七年の戦争というよりも、エルサレムの「統一」二五周年を大々的に祝つた。

イスラエル国内では、六月二三日の総選挙を前に、誰が国家利益を代表するかを軸に熱戦が展開され、シャミールのリクードは世論の巻返しを狙つて、よりいつそう強硬な姿勢を誇示している。緊急予算を組んだ入植地の増設、拡大への抬轍がその一例である。

そして、南部レバノンでは連日の空爆、砲撃

等が繰り返され、まさに戦雲が垂れ込めている。南部の緊張は、リクードの票かせぎのためと言われるが、そうであればあるほど、シャミールによる巻返しのための冒險主義的な行動が行われる可能性は大きく、情勢は、南部に限らず、大きな危険性を孕んでいる。

今号では、レバノンの緊張を軸に、取り上げてみたい。

**一 緊張下のレバノン**

五月一九日、イスラミック・レジスタンスは、イクリム・トファヘを見下す「安全地帯」の

云々と報道し、混乱の責任をSLAに帰している。だが、SLAの指揮を取っているのは他でもなくイスラエル軍である。ということは、イスラエル軍こそこうした「恥」の責任を問われるべきだということに他ならない。

前号で述べたように、SLAの司令官ラハドは、イスラエルからの多額の支援と輩下の兵士



移民事業の継続で、「それはエチオピア、ソ連からの移民の突破口を開き、数十年に渡つてシリアに囚われているユダヤ人の解放」へと向つて、などと「国家機密、軍事機密の暴露」（クネセット内等からの非難）を行つてでも、投票稼ぎを計つた。

シャミール政権は、ペントガムがイスラエルのスペイ問題を理由に、イスラエルとゼネラル・エレクトリック社との飛行機エンジン契約を阻止してきたのに対し、六月二日、GEとの契約の全面停止で対応した。

ラビンは、入植活動の凍結やパレスチナの自治の承認で、米国からの援助を引き出そうとしている。米国との関係性はラビンの強調点の一つである。対するシャミールは、かつて同様の米国との「戦略的同盟関係」を追い求め、ブッシュの推進する中東和平と相容れない。そこで、交渉の停滞、妨害策動を展開し、はてはブッシュを追い落とすことをも策している。

レバノンにおける連日の空爆等の侵略行為と強硬発言の繰り返しは、アンカラの車爆弾やエノスアイレスの大使館爆破への報復や自らの「恥」を覆い隠すためもあるが、なによりもそれを通して票を搔き集めようとするものである。そうした目的のゆえに、大規模な地上攻撃や正面戦は、イスラエル軍の損失・票の喪失につながるので、可能性は小さく、むしろ、アレンスが宣言しているように、個人や重要ターゲットを狙つた攻撃を計つてくる。それは、六月八日のパリにおけるPLO幹部の暗殺では済ま

ず、もっと大きなものを狙つてくるであろう。

#### 四 結語に換えて

現在の南部での侵略とレジスタンスの攻防、被占領地での弾圧とインティファーダは、イスラエルの選挙のみならず、ブッシュ政権とシャミール政権との対決に規定されている。

前号の資料で紹介したように、米国内シオニスト・ロビーは、ブッシュ政権を倒すことを目指として掲げており、マスコミでのブッシュ叩きやペローの持ち上げなどによる策動もその一環としてある。他方のブッシュ政権も、ただシオニストの要求に従うのではなく、軍需産業の要求を背景として、アラブ＝イスラエルの統合支配の実現を目指しており、そのためにも、シャミール政権ではなく労働党政権を望んでいたシリアの対イスラエル強硬姿勢をも規定していると言える。

これらが、（南部やレバノンに限定しえない）軍事的緊張をつくり、今後の中東和平の行方をも規定することになつていている。

ジハード（聖戦）と勇気の大衆へ）  
祝福されたインティファーダを通し、全世界に占領との共存に断固たる拒否を示してきた。インティファーダの爆発自体、占領を拒否する全人民の鮮明な決断であり、それはまた、インティファーダが民族目標—帰還、自決、聖地エルサレムを首都とした建国—と、譲り渡しへぬるとしている。これは言うまでもなく、安保理決議二四二や四二五をそのまま受け入れることはない、ましてや四八年ライン内の「難民問題」などともない、ということである。

として、以下を挙げることができる。1、クリスチヤン内でジャジャへの批判が意外と強かつたこと。それは、七五年以来仏に「亡命」している国会議員のレイモンド・エッディがジャジヤによるクリスチヤン内分裂創出の数々を列挙して非難し、かつジャジャのイスラエルとの関係を非難したことによって代表される。2、同党創設者の息子にして元大統領のゲマイエルが、イスラエルのハーレツ紙のインタビューでシリア批判を行つたが、（国会で承認されなかつた）八三年の屈辱的な協定の張本人によるイスラエル紙を通じたジャジャへの掩護射撃は逆作用でしかなかつたこと。それは、前記のエッディの非難に証明されている。3、レジスタンスがイスラエル＝SLAを追い詰めていること。レジスタンスを支持するか否かは別にして、八二年の侵略がイスラエルにとって失敗であつただけでなく、クリスチヤンにも大きな被害を出したし、何よりもイスラエル＝SLAがレバノンの分裂と経済危機を作っている。4、そして、ペラヤティ＝イラン外相のレバノン訪問（六月二～三日）によって、人質問題の解決の目途がついたこと。それはとりも直さず、ECからの援助再開への道を開き、（一六年間にわたる内戦を終結した）タエフ合意に添つたレバノン再建を援助することにもつながる。

党首戦の前日、スフェイルは再びレジスタンス＝シリヤを批判した。だが、米＝イスラエルの策動に反して、カタエフはアラブとしての一體性の下でのレバノンの再建を指向するサーデ

を選んだ。逆に言えば、ジャジャでは、どんなに美辞麗句を用いようと、あるいはどんなに米国の強力なバックアップがあろうと、イスラエルとの関係を強め、再び内戦に逆戻りしかねないことへのクリスチヤンの拒否であった。

三 イスラエルの選挙とシャミールの危険な賭

さて、レバノンにおいて、と言うより反シリヤにおいて、米＝イスラエルが共同の策謀をしていたことを見つめたが、米国とイスラエルは決して利害が一致しているわけではない。それは、國務省による国連総会決議一九四号「帰還の権利」の承認問題に端的に示された。

タットワイラー女史が國務省見解として準備し、発表した国連総会決議一九四支持はイスラエル内に混乱を巻き起こした。多国間交渉の二部会のボイコットへの批判として、また労働党への支援としてのものだったのかもしれないが、それは労働党も認めがたい内容であった。

ラビンは、パレスチナの「自治」を認め、パレスチナの「総選挙」に合意するとし、基本的には入植活動を停止するとしている。しかし、イスラエルの安全保障にとって「死活的なものにはノー」と言い、そこにはエルサレム、ヨルダン渓谷、ゴラン、その他の対決線が含まれるとしている。これは言うまでもなく、安保理決議二四二や四二五をそのまま受け入れることはない、ましてや四八年ライン内の「難民問題」などともない、ということである。

（だが、この問題も実は、多国間交渉へのアラブ諸国の参加をより正当化させ、ボイコットしているシリヤとレバノンを孤立させる—より正確には、シリヤとレバノンの間に楔を打ち込もうとしているが、誰が最もイスラエルの安全部を保障するかを競い合うものになつていている。

たとえば、ガザの青年によるテルアビブ地区でのナイフ攻撃（五月二十四日、女学生死亡）やガザでの入植を推進しているラビ（ユダヤ教の司祭）への攻撃（二七日）に対して、ラビンがシヤミール政権の安全対策に欠陥があると非難するとしている。これは言うまでもなく、安保理決議二四二や四二五をそのまま受け入れることはない、ましてや四八年ライン内の「難民問題」などともない、ということである。

シヤミール政権はもちろんのこと、ユダヤ・ロビーからの追求のなかで、「帰還の権利」は和平交渉の議題ではないと國務省はその問題にふたをしてしまった。さらに、「歴史的過程が進行中であり、とりわけイスラエル内での熱い選挙戦の最中でもあり、これ以降は和平過程に関わることには答えない」とした。

（だが、この問題も実は、多国間交渉へのアラブ諸国の参加をより正当化させ、ボイコットしているシリヤとレバノンを孤立させる—より正確には、シリヤとレバノンの間に楔を打ち込もうとしているが、誰が最もイスラエルの安全部を保障するかを競い合うものになつていている。

たとえば、ガザの青年によるテルアビブ地区でのナイフ攻撃（五月二十四日、女学生死亡）やガザでの入植を推進しているラビ（ユダヤ教の司祭）への攻撃（二七日）に対して、ラビンがシヤミール政権の安全対策に欠陥があると非難するとしている。これは言うまでもなく、安保理決議二四二や四二五をそのまま受け入れることはない、ましてや四八年ライン内の「難民問題」などともない、ということである。

シヤミール政権はもちらんのこと、ユダヤ・ロビーからの追求のなかで、「帰還の権利」は和平交渉の議題ではないと國務省はその問題にふたをしてしまった。さらに、「歴史的過程が進行中であり、とりわけイスラエル内での熱い選挙戦の最中でもあり、これ以降は和平過程に関わることには答えない」とした。

シヤミール政権はもちらんのこと、ユダヤ・ロビーからの追求のなかで、「帰還の権利」は和平交渉の議題ではないと國務省はその問題にふたをしてしまった。さらに、「歴史的過程が進行中であり、とりわけイスラエル内での熱い選挙戦の最中でもあり、これ以降は和平過程に関わることには答えない」とした。

シヤミール政権はもちらんのこと、ユダヤ・ロビーからの追求のなかで、「帰還の権利」は和平交渉の議題ではないと國務省はその問題にふたをしてしまった。さらに、「歴史的過程が進行中であり、とりわけイスラエル内での熱い選挙戦の最中でもあり、これ以降は和平過程に関わることには答えない」とした。

シヤミール政権はもちらんのこと、ユダヤ・ロビーからの追求のなかで、「帰還の権利」は和平交渉の議題ではないと國務省はその問題にふたをしてしまった。さらに、「歴史的過程が進行中であり、とりわけイスラエル内での熱い選挙戦の最中でもあり、これ以降は和平過程に関わることには答えない」とした。

#### アイン・カラ（リション・レツイオン）大虐殺の殉難者たちの呼びかけ（抄）

民族統一指導部／PLO、パレスチナ国への呼びかけ、第八二号

#### 資料

（わからが輝けるインティファーダの大衆）

る大衆デモと暴力的報復をもつて対決していくことを、人民に訴える。

勝利的インティファーダに対する今一つの鎮圧計画は、マス・メディアを使っての熾烈な心理攻撃である。人民の意気沮喪と闘いへの疑念をひきおこすべく、捏造声明や根も葉もない噂の流布などに着手してきた。敵側ラジオがファタハのものとして放送した声明は、その一例にすぎず、エルサレムの北西部諸村でファタハ攻撃部隊の名を騙つたいくつかの声明も、われらが戦士への誹謗中傷を狙つたものである。こうした怪声明は、人民内部に分裂の種をまき、戦士たちをおとしめる策動である。それゆえ、流言に手を貸す者は警告を発する。何人かの手配中の活動家が当局に寝返りつつあるなどといった噂やインティファーダが終息過程にはいつたかのごとく描き出そうとしている敵の走狗も同様である。われらはインティファーダ大衆に全幅の信頼を寄せつつ、なお、かかる死活的情勢下にあつては、敵の報道に十分注意し、第五列と流言者を孤立させるよう、呼びかける。

〈われらが偉大な人民大衆へ〉

われらは、メーテーを、われらが労働者への二重の搾取下で迎える。占領者は、一方で労働力を搾取しつつ、彼らの権利を根こそぎにし、飢餓、ひいては棄民の企てをもつて解雇している。さらに、占領下のパレスチナ労働者には、給与や労働条件での人種的差別がかけられ、多くの制限、罰金、労働許可代金（なる「税金」）が課せられている。

他方、一部パレスチナ人雇用主は、契約違反からてはゴロツキどもを利用しての組合加入に対する搾取、不当待遇を時折行つてゐる。UNLは、これらの異常な対応には誰であれ処罰を下すであろうことを確認する。われらは、雇用者に対し、労働者の権利を尊重すること、組合も労働者の権利を確保し、彼らへの責務を果たすよう訴える。そして雇用者は、労働者が然るべき生活を送れ、シオニズムの計画と対決しつつ、失業者のできる限りの吸収を、呼びかける。同時に、労働者兄弟たちに、真摯な仕事ぶりと生産性の質的量的向上を呼びかけ、労働者の非道行為を停止させ、大量の失業者を吸収する生産部門を支えるよう、訴える。

〈われらが大衆〉

シャミールの露骨な入植地建設の狂奔は、いつそう強化された反土地収用、反入植の人民抵抗に直面することになろう。UNLは、入植地での就労全面ボイコット呼びかけを再度行うとともに、民族產品での代替可能なイスラエル產品のボイコットを強く訴える。一方、パレスチナ工場の所有者には、製品の質と価格とに充分な注意を払い、国民の基礎的需要をまかなうべく投資を拡大するよう、呼びかける。UNLは、また、呼びかけ第八一号での営業時間を商店主が厳守することの必要性を確認する。

UNLは、一般中等教育での問題解決にむけた公正事務所活動を注意深く追つてきた。教育課程の厳密さの維持と生徒の利益を図る方法での解決努力を高く評価するとともに、生徒たちに、来たる試験に向けていつそう勉強に励み、試験での不正行為の風潮を拒絶することを呼びかける。教育の維持・発展は、民族闘争の一つ態なのである。

UNLは、人民内部の係争点の解決を暴力に訴えるあり方、並びにかかる行為への民族的、宗教的外被の付与を非難する。これらの係争点は、人民内部の矛盾を深め、人民と祖国に対する敵の計画から注意をそらすべく、常に敵によつて触発されてきた。すべての党派、民族勢力、イスラム勢力に対し、隊伍を緊密にし、いつさまで敵のエージェントとして処置するだろう。

なお、最近婦女子への攻撃や、略奪、武装強盗の流行が注目されているが、UNLは、かかる犯罪者に対する追跡、厳罰を呼びかける。このような襲撃は、パレスチナの社会不安を狙う当局によつて動かされた者の仕業以外にはありえない。われらは、また、ナブルスでのバス（複数）放火、住民間での恐怖誘発を非難する。民衆の存在を頭越しにしたり、大衆的事項を個人的に処理したりすることは許されない。

UNLは、対リビア禁輸を非難し、これを、アラブ各国の個別撃破、アラブ民族の屈服、力と富の収奪を狙う米国の計画の今一つの環とみる。



アの兄弟に対する不当な禁輸に拘束されることのないよう、呼びかける。

UNLは、ガザの大衆を称え、戦士たちにあいさつを送り、連日の対敵、対入植者闘争を高く評価する。

われらは、ナジ・カナーン弁護士の暗殺を非難し、御遺族への弔意、と同時に、攻撃部隊がこの下手人などを追捕、処罰するよう、訴える。

〈われらが偉大な人民大衆へ〉

UNLは、以下の諸活動を、呼びかける。

1、メーテー、労働者を称え、セミナーを開催。  
有給休日とすること

2、五月三日、国際ジャーナリズムの日

3、五月五日、リビア人民との連帯の日

4、五月九日、インティファーダの五四カ月目、ゼネストの日

5、五月一五日、パレスチナ建国の日、対決の日

6、五月二〇日、アイン・カラの殉難者追憶、ゼネストの日

7、五月二十五日、被没収地地主との連帯の日

8、五月二十五日、獄中者との連帯の日

9、五月二八日、六四年にエルサレムで第一回パレスチナ国民会議の代表、PLOへの結

かはてはゴロツキどもを利用しての組合加入に対する搾取、不当待遇を時折行つてゐる。UNLは、これらの異常な対応には誰であれ処罰を下すであろうことを確認する。われらは、雇用者に対し、労働者の権利を尊重すること、組合も労働者の権利を確保し、彼らへの責務を果たすよう訴える。そして雇用者は、労働者が然るべき生活を送れ、シオニズムの計画と対決しつつ、失業者のできる限りの吸収を、呼びかける。同時に、労働者兄弟たちに、真摯な仕事ぶりと生産性の質的量的向上を呼びかけ、労働者の非道行為を停止させ、大量の失業者を吸収する生産部門を支えるよう、訴える。

〈われらが大衆〉

シャミールの露骨な入植地建設の狂奔は、いつそう強化された反土地収用、反入植の人民抵抗に直面することになろう。UNLは、入植地での就労全面ボイコット呼びかけを再度行うとともに、民族產品での代替可能なイスラエル產品のボイコットを強く訴える。一方、パレスチナ工場の所有者には、製品の質と価格とに充分な注意を払い、国民の基礎的需要をまかなうべく投資を拡大するよう、呼びかける。UNLは、また、呼びかけ第八一号での営業時間を商店主が厳守することの必要性を確認する。

UNLは、一般中等教育での問題解決にむけた公正事務所活動を注意深く追つてきた。教育課程の厳密さの維持と生徒の利益を図る方法での解決努力を高く評価するとともに、生徒たちに、来たる試験に向けていつそう勉強に励み、試験での不正行為の風潮を拒絶することを呼びかける。教育の維持・発展は、民族闘争の一つ態なのである。

UNLは、人民内部の係争点の解決を暴力に訴えるあり方、並びにかかる行為への民族的、宗教的外被の付与を非難する。これらの係争点は、人民内部の矛盾を深め、人民と祖国に対する敵の計画から注意をそらすべく、常に敵によつて触発されてきた。すべての党派、民族勢力、イスラム勢力に対し、隊伍を緊密にし、いつさまで敵のエージェントとして処置するだろう。

なお、最近婦女子への攻撃や、略奪、武装強盗の流行が注目されているが、UNLは、かかる犯罪者に対する追跡、厳罰を呼びかける。このような襲撃は、パレスチナの社会不安を狙う当

集を表現する

10、五月一、七、八、一〇、一九、二五の各日  
は、商店の終日営業日  
—祝福されたインティファーダ万歳  
—われらが英雄的人民の闘争万歳  
—われらが人民の唯一正当の代表PLO万歳

UNL、パレスチナ国  
九二年五月一日

五月七日より一〇日まで開催されたパレスチナ中央評議会（PCC）関連の文書の抄訳。

〈その一〉

PCCの最終声明

入植・占領に、不屈性をもつて抗しているインティファーダ、英雄的パレスチナの大衆に対し、心からのあいさつを送り、PLOによる支援継続を断言する。

PCCは、パレスチナ代表団が担つた戦闘的役割を高く評価する。彼らは、被占領地内外のパレスチナ人民の団結をよく守り、交渉や米露等との公式会談で、われらが民族の基本原則とパレスチナ国民会議（PNC）の諸決議を強く訴えてきた。

われらは、被占領地内外の人民大衆に、代表団への支持を呼びかける。われらが暫定目標、すなわち帰還、自由と独立、入植地建設の停止、ジユネーブ条約の履行、占領軍の撤退、占領當局の開催された日。際だつたエスカレーションの日として、唯一正当の代表、PLOへの結

施が、交渉の席上で代表団が示した目標である。PNCの諸決議並びに民族原則に基づき、PCCは以下確認する。

1、第一九回PNCの平和イニシアチブは、われらが基礎である。中心目標は、エルサレムを首都としたパレスチナ独立国家である。

2、「ランド・フォー・ピース」の原則および安保理決議二四二、三三八の厳守。西岸、ガザ、聖地エルサレム、ゴラン高原、レバノン南部からイスラエルの全面撤退こそが、二四二ほかキリスト教に対する財産没収や宗教性破壊策動、聖域侵害行為の停止が、交渉の基本的提条件。われらが人民への国際的保護の確保を。

4、入植地建設の停止は、交渉進展の鍵であり、和平過程全体の展開を画するものとなろう。平和と占領との間に中間はない。

5、PCCは、関係諸国に、和平過程成功のため、イスラエルへの融資保証や経済援助の停止など、その力を行使するよう呼びかける。

6、敵イスラエルのエルサレム併合決定の拒否。パレスチナ国家の首都エルサレムは占領下パレスチナの不可分の一部である。

7、移行期（過渡的段階）は、占領當局から國際的保護、監督下のパレスチナ人への権力移譲と自決権行使を目指した暫定的なものでなければならぬ。

8、国連決議に違反したイスラエルの言動を非





今年の不幸な五月一五日は、インティファーダと革命、われらが大義総体が最も危険な陰謀に直面しているなかで迎えられる。アラブ民族は脆弱かつバラバラであり、われらが民族についても、偏向指導部とその支持者の政治路線による、深刻な分裂・分散状態にある。

だがわれらが革命とインティファーダ、被占領地内外の大衆は、民族的戦闘精神と自己犠牲で武装し、英雄的に、この状況に抗しており、四八年五月一五日以来シオニズム搾取国家が体現してきた悪魔に対し、正義の鉄槌が下るまで闘いが続くことを保証している。

「われらが英雄的人民大衆へ、われらが不死の民族大衆へ」

シオニストと帝国主義のパトロンたちは、五

月一五日を、パレスチナの祖国、人民、アイデ

ンティティイといつさいに幕をおろす歴史的転換の

日にせんとした。入植者の侵略統治体を帝国主

義権益防衛の前進基地として据え、もって、ア

ラブ民族を屈服させようというわけである。

しかし、われらが人民を否定し、その民族的

アイデンティティや大義を葬り去ろうとした奴

らの企ては、六五年、ファタハによって切り開

コマンド型レジスタンスを勇敢に闘いぬいてい

るわれらが人民にあいさつを送る。

DFは、民族内の否定的諸現象に痛苦の念を

表明する。これらは、ついにナブルスのアル・

ファリア・キャンプでの同志ジハード・アブ・

ゼイナの殉難を招いてしまった（UNLは、彼

の闘いを評価してインティファーダの殉難者と

した）が、DFはこうした否定的現象に対し、

賢明に対処することを呼びかける。また、イン

ティファーダの諸統一民族団体を全レベルで再

生させ、支援し、限定的階級的諸機関の解散を

呼びかける。DFは、UNLの外にある反占領

勢力（ハマスとイスラミック・ジハードなど）

とのいつそ緊密な関係を呼びかけるとともに

に、民族諸団体や占領故

に困窮を極めている社会階級、すなわち殉難者ら

の家族、解雇された労働者たちへ杓子定規的でな

く、必要に応じた財政的

援助を、と指摘する。

DFは、パレスチナ人内の不一

和平交渉の諸条件は、

かれたパレスチナ革命のため、今なお実現できぬままである。

パレスチナ全土解放の主要な闘争形態＝武装闘争は、われらが人民の团结とファタハへの結合との屋台骨を形づくり、さらには、パレスチナ革命の再生と敵に対するわれらが人民の断固たる回答の基本要素であった。これは、過去二

五年以上にわたる革命過程のなかでも、現在の危機においても立証された。敵の目的達成をはばむものは、革命の旗を高く掲げ続けることに

あると、われらは強調したい。そうしてこそわれらは、郷土解放のために全民族、全アラブの潜在力を動員し、われらが戦闘的遺産と民族の

独自性とに依拠しうる。

痛苦の象徴たる五月一五日は、敵にとっては、

乱痴狂騒ぎの祝日である。われらが民族の諸勢

力は、これを怒りのバネとして力を統一し、対

決のため、全能力を出しきらねばならない。

パレスチナ側妥協者たちは、破滅的路線の実

行をやめねばならない。幻想をふりまいたり、

敵米国のシオニストへの圧力を計算したりとい

う、人民に対する欺瞞路線を放棄せよ。代償な

き妥協をやめよ。敵シオニストとの共存はあり

えず、その打倒と全土解放まで、対立に終わり

はない。

「われらが人民大衆へ」

パレスチナ側妥協者たちは、ムトハラス（三角地帯）、ガリリー、

ネゲブをはじめとする四八年占領下の大衆の、

その土地と家屋の固守、そして野蛮な弾圧や諸

交渉を中断せよ。PLOはすべてのパレスチナ人

を代表すべきである。難民小委員会のボイコットを。難民問題と被占領地の運命を一体のパレ

スチナの大義として扱うべきである。

DFは、PLO内官僚的実権派に対し、不團

結の政策の停止、人民の政治的統一の回復、P

Lの威信の回復を求める人民の声に応えるよ

う、呼びかける。

DFは、米国および一部アラブ諸国からの圧

力を警戒するよう指摘する。彼らは、民族の大

義と三〇年にわたる闘争、インティファーダの

獲得物の解体を狙つたいかがわしい「解決」を

押しつけようとしている。

DFは、レバノンのレジスタンスとパレスチ

ナ革命、その軍事作戦にあいさつを送る。また、

PLOの在レバノン難民キャンプに対するあり

方を正し、社会権、財政権を譲るよう、呼びか

ける。ベイルートの不屈のキャンプの再建、キ

ャンプでの貧困、飢餓、失業、欧米への移民流

出といった諸問題の解決、かつまた、帰還の途

上たるべきキャンプが、敵の策動に強固に対決

しうるようにするためである。

DFは、パレスチナ、ヨルダン、シリリア、レ

バノン間での調整、改善の必要を指摘する。

五月一五日のパレスチナ篡奪の日に際して、「パレスチナ民族解放運動」（ファタハ）臨時指導部の政治声明（抄）

「われらが不屈の人民大衆へ、われらが栄光の民族大衆へ」

今年の不幸な五月一五日は、インティファーダと革命、われらが大義総体が最も危険な陰謀に直面しているなかで迎えられる。アラブ民族は脆弱かつバラバラであり、われらが民族についても、偏向指導部とその支持者の政治路線による、深刻な分裂・分散状態にある。

だがわれらが革命とインティファーダ、被占領地内外の大衆は、民族的戦闘精神と自己犠牲で武装し、英雄的に、この状況に抗しており、四八年五月一五日以来シオニズム搾取国家が体現してきた悪魔に対し、正義の鉄槌が下るまで闘いが続くことを保証している。

「われらが英雄的人民大衆へ、われらが不死の民族大衆へ」

シオニストと帝国主義のパトロンたちは、五

月一五日を、パレスチナの祖国、人民、アイデ

ンティティイといつさいに幕をおろす歴史的転換の

日にせんとした。入植者の侵略統治体を帝国主

義権益防衛の前進基地として据え、もって、ア

ラブ民族を屈服させようというわけである。

しかし、われらが人民を否定し、その民族的

アイデンティティや大義を葬り去ろうとした奴

らの企ては、六五年、ファタハによって切り開

コマンド型レジスタンスを勇敢に闘いぬいてい

るわれらが人民にあいさつを送る。

DFは、民族内の否定的諸現象に痛苦の念を

表明する。これらは、ついにナブルスのアル・

ファリア・キャンプでの同志ジハード・アブ・

ゼイナの殉難を招いてしまった（UNLは、彼

の闘いを評価してインティファーダの殉難者と

した）が、DFはこうした否定的現象に対し、

賢明に対処することを呼びかける。また、イン

ティファーダの諸統一民族団体を全レベルで再

生させ、支援し、限定的階級的諸機関の解散を

呼びかける。DFは、UNLの外にある反占領

勢力（ハマスとイスラミック・ジハードなど）

とのいつそ緊密な関係を呼びかけるとともに

に、民族諸団体や占領故

に困窮を極めている社会階級、すなわち殉難者ら

の家族、解雇された労働者たちへ杓子定規的でな

く、必要に応じた財政的

援助を、と指摘する。

DFは、パレスチナ人内の不一

和平交渉の諸条件は、

かれたパレスチナ革命のため、今なお実現できぬままである。

パレスチナ全土解放の主要な闘争形態＝武装

闘争は、われらが人民の团结とファタハへの結

集との屋台骨を形づくり、さらには、パレスチ

ナ革命の再生と敵に対するわれらが人民の断固

たる回答の基本要素であった。これは、過去二

五年以上にわたる革命過程のなかでも、現在の危機においても立証された。敵の目的達成をは

ばむものは、革命の旗を高く掲げ続けることに

あると、われらは強調したい。そうしてこそわれらは、郷土解放のために全民族、全アラブの

潜在力を動員し、われらが戦闘的遺産と民族の

独自性とに依拠しうる。

痛苦の象徴たる五月一五日は、敵にとっては、

乱痴狂騒ぎの祝日である。われらが民族の諸勢

力は、これを怒りのバネとして力を統一し、対

決のため、全能力を出しきらねばならない。

パレスチナ側妥協者たちは、破滅的路線の実

行をやめねばならない。幻想をふりまいたり、

敵米国のシオニストへの圧力を計算したりとい

う、人民に対する欺瞞路線を放棄せよ。代償な

き妥協をやめよ。敵シオニストとの共存はあり

えず、その打倒と全土解放まで、対立に終わり

はない。

「われらが人民大衆へ」

パレスチナ側妥協者たちは、ムトハラス（三角地帯）、ガリリー、

ネゲブをはじめとする四八年占領下の大衆の、

その土地と家屋の固守、そして野蛮な弾圧や諸

交渉を中断せよ。PLOはすべてのパレスチナ人

を代表すべきである。難民小委員会のボイコットを。難民問題と被占領地の運命を一体のパレ

スチナの大義として扱うべきである。

DFは、PLO内官僚的実権派に対し、不團

結の政策の停止、人民の政治的統一の回復、P

Lの威信の回復を求める人民の声に応えるよ

う、呼びかける。

DFは、米国および一部アラブ諸国からの圧

力を警戒するよう指摘する。彼らは、民族の大

義と三〇年にわたる闘争、インティファーダの

獲得物の解体を狙つたいかがわしい「解決」を

押しつけようとしている。

DFは、レバノンのレジスタンスとパレスチ

ナ革命、その軍事作戦にあいさつを送る。また、

PLOの在レバノン難民キャンプに対するあり

方を正し、社会権、財政権を譲るよう呼びか

ける。ベイルートの不屈のキャンプの再建、キ

ャンプでの貧困、飢餓、失業、欧米への移民流

出といった諸問題の解決、かつまた、帰還の途

上たるべきキャンプが、敵の策動に強固に対決

しうるようにするためである。

DFは、パレスチナ、ヨルダン、シリリア、レ

バノン間での調整、改善の必要を指摘する。

ズム対立の終息を狙つた陰謀が存在し、米国と





エルの空爆、侵略行為を非難。

・アラブ連盟事務局長、西側はリビアとの「交渉を怖れる必要などない」。「引渡しはリビアの法に反し、かつ条約もない以上できない」。

「法的にはリビアは一〇〇%正当である」。

五月二五日

・ガザ、封鎖とセツラーの乱暴との闘い（二日間で七九名が負傷）。

五月二六日

・アラブ連盟、昨年の入植一三五〇〇以上（六年七九年〇年の合計が二万）と非難。

五月二七日

・ガザ、入植者ラビをナイフで殲滅。入植者がUNRWAの学校攻撃や新入植地設置。

・アラブ連盟、南部への侵略は選挙のため、多国間交渉にはイスラエルが南部から撤退まで参加しない。アラブの統一を（本文参照）。

六月二日

・ガザ、入植者ラビをナイフで殲滅。入植者がUNRWAの学校攻撃や新入植地設置。

・アラブ連盟、南部への侵略は選挙のため、多国間交渉にはイスラエルが南部から撤退まで参加しない。アラブの統一を（本文参照）。

六月三日

・ガザ、P.F活動家が特務に殺される。一方、UNRWAは封鎖対策として食料の配布。封鎖と入植者による倉庫襲撃など破壊活動を非難。

・イスラエル、G.Eとの契約停止（本文参照）。

・エルサレムのアラブ語誌（アル・ファタハ・アル・アラビ）発禁に。

・エルサレムのアラブ語誌（アル・ファタハ・アル・アラビ）発禁に。

・エルサレムのアラブ語誌（アル・ファタハ・アル・アラビ）発禁に。

・エルサレムのアラブ語誌（アル・ファタハ・アル・アラビ）発禁に。

・エルサレムのアラブ語誌（アル・ファタハ・アル・アラビ）発禁に。

・エルサレムのアラブ語誌（アル・ファタハ・アル・アラビ）発禁に。

五月三〇日

・エイラート、一人が泳いでたて攻撃。

・アラファト議長、シリア訪問。

六月一日

・アラファト議長、（アンマン）脳内出血のため手術。

・アシユラウイ女史、ECに中東和平におけるより能動的な役割を要請。

・ハラウイ大統領、南部への侵略は選挙のため、多国間交渉にはイスラエルが南部から撤退まで参加しない。アラブの統一を（本文参照）。

・前線四カ国外相会談アンマン（七日まで）、二国間交渉はイスラエルの選挙後、南部への侵略行為および入植活動と人権侵害を非難、アラブの統一、アラブ連盟外相会議を呼びかけ。

・西岸、ナブルスのナジャーハ大学に一週間の閉鎖命令。また、軍は農民らが使用している洞穴を「ゲリラの隠れ場所になる」と破壊。

・アサド大統領（BBCインタビュー）、「イスラエルの侵略は選挙目的」「シリアは仕掛けられれば防衛のため闘う」（本文参照）。

・イラン外相、イラン革命後初めてのレバノン訪問（本文参照）。

・ゲマイエル、ハーレツ紙インタビューでシリ

・ア等を非難（本文参照）。

・イスラエル、占領反対、パ国家承認、人権尊重を訴えるデモ（イスラエル、米、欧洲から約四〇〇名）を警察が弾圧、一一五名が逮捕された。

・西岸、ガザ、「ハマスとファタハの合意」リー

・フレット（ただし、ハマスは否定）。

・イスラエル、占領反対、パ国家承認、人権尊重を訴えるデモ（イスラエル、米、欧洲から約四〇〇名）を警察が弾圧、一一五名が逮捕された。

・パリ、P.L.O.のセキユリティ副責任者が暗殺される。P.L.O.はモサドを非難。

・西岸、ガザ、人民の闘い。

・パリ、P.L.O.のセキユリティ副責任者が暗殺される。P.L.O.はモサドを非難。

・西岸、ガザ、人民の闘い。

・パリ、P.L.O.のセキユリティ副責任者が暗殺される。P.L.O.はモサドを非難。

・西岸、ガザ、人民の闘い。

・西岸、ガザ、人民の闘い。

・西岸、ガザ、人民の闘い。

・西岸、ガザ、人民の闘い。

・ペイルートのイラン大使館、ホメイニ師の三周忌記念集会（本文参照）。

・アサド＝ムバラク会談、アラブの連帶を！

六月五日、六月戦争二十五周年

・イスラエル機、アイネヘルワを空爆（前日のラシャディエに続いて）。

六月六日 八二年侵略一〇周年

・ペイルートのイラン大使館、ホメイニ師の三周忌記念集会（本文参照）。

・アサド＝ムバラク会談、アラブの連帶を！

六月九日 インティファーダ五五カ月目

・リビア、英國にI.R.A関連資料を提供。また、革命的グループがリビア通信をコントロール

と発表。以降、カダフィー大佐批判行われる。